

横浜国立大学とその周辺エリア ～みどりときずなと…～



まちの魅カインデックス

① 地域にひらかれた横浜国立大学

～「成り立ち」と「理念」～

～YNUミュージアム～

② 横浜国立大学の小さな看板

③ 思いが詰まった あじさいロード

④ 大学周辺に広がるキャベツ畑

⑤ 鎌倉古道下ノ道

～道と歴史をたどる～

～今も帷子の峯を見守る帷子稻荷～

⑥ 鎌倉古道下ノ道

～僧の学問所「壇林」があった法照山豊顕寺～

～壇林後は「豊顕寺市民の森」～

⑦ 鎌倉古道下ノ道

～緑に囲まれた三ツ沢公園馬術練習場～

～てっぺん山の由来・今昔～

地域にひらかれた横浜国立大学 ～「成り立ち」と「理念」～

横

浜国立大学は、神奈川師範学校・神奈川青年師範学校・横浜経済専門学校・横浜工業専門学校を母体として、昭和24年に開学しました。

開

学当初は、学芸学部が鎌倉地区、経済学部が清水ヶ丘地区、工学部が弘明寺地区に分散していましたが、開学以来の宿願であった学園統合を果たすため、昭和40年に程ヶ谷カントリー倶楽部の跡地を統合候補地に決定しました。そして、昭和49年に教育学部・経済学部・経営学部が、昭和54年に工学部が移転を終了し、現在の常盤台キャンパスに全学部が集結しました。

そ

んな横浜国立大学が理念の一つとして掲げているのが「開放性」。その理念の通り、近年はより地域にひらかれた大学として、保土ヶ谷区民に親しまれています。

名教自然碑

大学工学部の前身、横浜高等工業学校初代校長 鈴木達治氏の功績を顕彰した^{しん}徳碑で、昭和12年に建立。昭和53年に常盤台キャンパスに移設。平成12年に国の登録有形文化財に指定。



ほどがや語りべ集

横浜国立大学とその周辺エリア

1 地域にひらかれた横浜国立大学 ～YNUミュージアム～

大 学には、一般の人にも開放されている「YNUミュージアム」があることをご存じでしょうか？

「YNUミュージアム」では、時代の変遷の中で、横浜国立大学がどのような歴史を刻み、現在へと歩んできたのか、そしてこれからどのような未来へ向かっていこうとしているのかを知ることができます。横浜国立大学のことをより詳しく知りたい方は、ぜひ足を運んでみてください。

YNUの歴史
【過去エリア】

YNUの現在
【現在エリア】

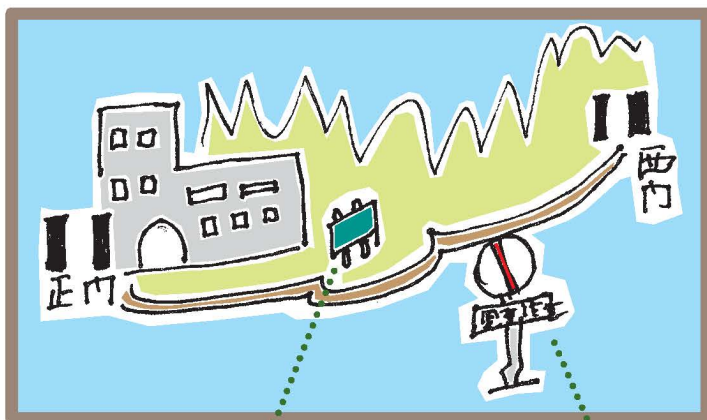


YNUの未来
【未来エリア】

YNU
科学技術資料
コレクション

2 横浜国立大学の小さな看板

横浜国立大学キャンパスの林の中に
「小さな看板と奇妙な標識」
を見つけました。



この道は、常盤台小学校への通学に限り、
子供達の通り抜けを認めています。

遊んでいる子供を見たら、寄り道しないよう
声をかけてあげてください。

横浜国立大学



ほどがや語りべ集

横浜国立大学とその周辺エリア

2 横浜国立大学の小さな看板

ほどがや語りべ集

横浜国立大学とその周辺エリア



大学、小学校、地域が連携して児童の登下校を見守っています。

深いみどりの林の中は、児童にとってびっくりするような自然の連続です。

この掲示板や道路標識には、深い愛情とユーモアを読みとることができます。



語りべ：田島 弘さん

あじさいロード周辺 MAP



3 思いが詰まった あじさいロード

ほどがや語りべ集

横浜国立大学とその周辺エリア



あじさいロードは、平成5年頃までせせらぎのような小川が流れていました。しかし、周囲の宅地化により、悪臭のする川に変質すると、下水道が整備され、川は姿を消しました。

川の跡地は、ごみや雑草で荒れ果てた空き地となったため、近隣の有志が清掃を始めました。そして、毎週1回木曜日の午前中、定期的に約20人の峰沢町・岡沢町の地域有志が集まるようになり、「花咲かせ隊」の発足となりました。

グループ名は、荒地に花を植えてきれいにするとともに、定年後に「もうひと花咲かせよう」との意味が込められています。

また、緑道設置の要望が実を結び、平成12年秋に遊歩道への改修工事が完了しました。緑道には、下水から出た汚泥で作られたハマレンガが採用され、道・花壇・井戸・峰の赤富士・せせらぎの池など多彩にレンガを駆使した遊歩道となりました。

植物は、アジサイを主として、実のなる木を植えてあります。池には、メダカ・ドジョウ・カワニナなどをはじめ、スイレン・セキショウ・オモダカなどの水生植物が生息しており、池の浄化作用に役立っています。

語りべ：墨 厚さん

4 大学周辺に広がるキャベツ畑



「横浜キャベツ」のブランド名で共同販売

「横

浜キャベツ」は、保土ケ谷区、神奈川区、泉区の農家を中心に約90人で共同販売しており、品種、規格（大きさなど）、出荷方法などをそろえ、統一を図っています。

また、季節ごとに栽培する品種が異なります。春は5種類、秋は4種類と暑さや寒さに対する強さで使い分けているそうです。

キャベツの特徴

ビタミンCが豊富で、緑葉部約150g中に一日の必要量があると言われています。

春のキャベツは柔らかくてみずみずしいので、サラダ向きです。一方、11月頃のキャベツは葉が固めなので、ロールキャベツなどの煮込み料理に最適です。

ほどがや語りべ集

横浜国立大学とその周辺エリア

4 大学周辺に広がるキャベツ畑

キャベツを
使用したレシピ

キャベツの 具だくさんポトフ



材料(6人分):
キャベツ 1/2個
ニンジン 1本
タマネギ 1と1/2個
ジャガイモ(小さめ) 6個
豚モモ肉(ブロック) 700g
洋風だし1袋

作り方

- ① キャベツは6等分、ニンジンは乱切り、タマネギは縦4等分に
して、ジャガイモはよく洗う。
- ② 鍋に水8カップ、洋風だし、豚肉を入れて火にかけ、アクを除き
ながら弱火で15~20分煮る。さらに、ジャガイモ、ニンジン、
タマネギを加えて20~30分煮る。
- ③ キャベツを加えて5~10分煮た後、塩、コショウで味付けをする。
豚肉を食べやすい大きさに切り、野菜と一緒に盛り付ける。お好みで、
粒入りマスタード、マヨネーズを添えて。

ポイント★

- ・キャベツは、甘みのある下半分を使いましょう。
(上半分は、千切りなどに使う方が向いています。)
- ・豚肉は丸ごとゆでてから切ると、臭みが抜けにくい上、手軽です。

キ

ャベツの素材の味を堪能するなら、ポトフがおすすめです。
そのほか、スープにしてもよく合いますが、くたくたになる
までじっくり煮込むと、また違うおいしさに出会えます。

語りべ：渡邊 廣子さん

5

鎌 倉幕府が、関東一円に散在する御家人集団が「いざ鎌倉」のとき、いち早く鎌倉に馳せ参じることができるように整備した道であるといわれています。

鎌倉を起点とし、北に向かって放射状に延びた3本の道(上ノ道、中ノ道、下ノ道)が主な道で、「下ノ道」は金沢横町から帷子川に架かる古町橋を渡り、宮田町の急坂を登り、鎌谷町と岡沢町境の尾根道をたどって三ツ沢公園、三ツ沢上町交差点に至り、さらに片倉町、菊名を経て千葉方面に通じていたようです。

鎌倉古道下ノ道に沿って「帷子稻荷」、「豊頭寺(神奈川区)」、「三ツ沢公園馬術練習場(神奈川区)」、「てっぺん山」を歩いてみました。



横浜国立大学とその周辺エリア

- ① 稚子稲荷 ② 豊顕寺 (神奈川区) ③ 三ツ沢公園馬術練習場 (神奈川区) ④ てっぺん山

鎌

倉古道下ノ道が通った三ツ沢上町交差点の脇から横浜国立大学への通学路の入口に帷子稻荷があります。

朱

塗りの鳥居もなく、狛キツネもない。稻荷社らしからぬその建物は、林の中にそっとたたずんでいます。



江

戸時代、現在の峰岡町、常盤台、峰沢町、岡沢町、鎌谷町一帯の丘陵は「帷子の峯」と言われていました。帷子稻荷の名称は「帷子の峯に祀られた稻荷社」から名付けられたといわれています。



帷子稻荷



三

ツ沢上町交差点からせせらぎ緑道に入り、せせらぎに沿って行くと小さな門前橋、渡ると右手が豊顕寺。創建500年の記念事業真っ最中です。

豊

顕寺は三河国多米村(現・豊橋市多米町)の郷土「多米元興(ためもとおき)」が、永正12(1515)年に先祖供養のため建立した「本顕寺」が前身になります。本尊は十界曼荼羅と本仏釈尊。

その後、元興が小田原北条氏の家臣となって、三ツ沢一帯を所領し、隠棲した後の天文年間、現在の三ツ沢の地に本顕寺を移転し、「豊顕寺」と改称しました。



豊顕寺の門

元

興の子「長宗」が青木城の城主となると、三ツ沢の山荘全部を寄与しました。そして、享保9（1724）年、法華宗は、この豊頭寺の敷地内に檀林（僧の学問所）を開講しました。その規模は、学舎5棟、学寮25棟、学徒は300人を下らぬ盛況であったそうです。

しかし、大正12年9月の関東大震災で建物が倒壊し、檀林は廃絶しました。



豊頭寺本堂



現

在、檀林跡は豊頭寺市民の森となり、静かな古都の風情が漂います。石段を上がると、右手に桜林、藤棚、アジサイ、秋には紅葉も楽しめます。

鎌

倉古道下ノ道は、三ツ沢交差点から岡沢橋、横浜市民病院、三ツ沢公園の西側の緑へと続きますが、豊頭寺市民の森から三ツ沢公園に入り、横浜市戦没者慰霊塔に出て右側の斜面地をのぞくと、横浜の真ん中になんと乗馬の練習場があります。



写真提供：NPO 法人横浜市馬術協会

乗

馬は下半身を使うのでくびれ、脚痩せ、腰痛予防に最適！有酸素運動で、30分で320キロカロリー消費します。体幹やバランス力も養われます。

三ツ沢公園馬術練習場は、交通の便にも恵まれた静かな公園内にあり、一般市民、老若男女、誰でも気軽に乗馬体験ができます。



語りベ：千木良 謙吉さん

ほどがや語りべ集

横浜国立大学とその周辺エリア

鎌倉古道下ノ道 ～てっぺん山の由来・今昔～

「遊ぼう、山へ行こう、
てっぺんで、てっぺん山へ」

そんな子どもたちの合言葉で生まれたようだ。
今では、老若男女が集う憩いの場である。

路地をぬけ 登ってみたら てっぺん山
(ほどがやカルタより)



路地をぬけ
登ってみたら
てっぺん山

懐かしいてっぺん山の
思い出

春 コジユケイが
「チョットコイ チョッ
トコイ」

夏 ホタルが「スーイ スイ」
秋 まつむし、すすむし、
くつわむし

その昔 平家の武将が隠れ住
んだという武蔵野の一角。

てっぺん山

大きく変貌した街並み

関東大震災後、宅地造
成により街並みは住宅
化。人と人とのふれあ
い・つながりは街の宝
となり、今やてっぺん
山は、人が集う地域の
中心となっている。

垣間見えた 関東大震災のあと…
当時の人々の汗の結晶を見た レンガの擁壁

てっぺん山へ登る入口にあるレンガの擁壁は、大震災で職を
失った人たちが集まる労働の場だった。各地から集められた
レンガ、その一部に刻印があった。

桜の刻印、それは東京拘置所で作られたレンガだという…

